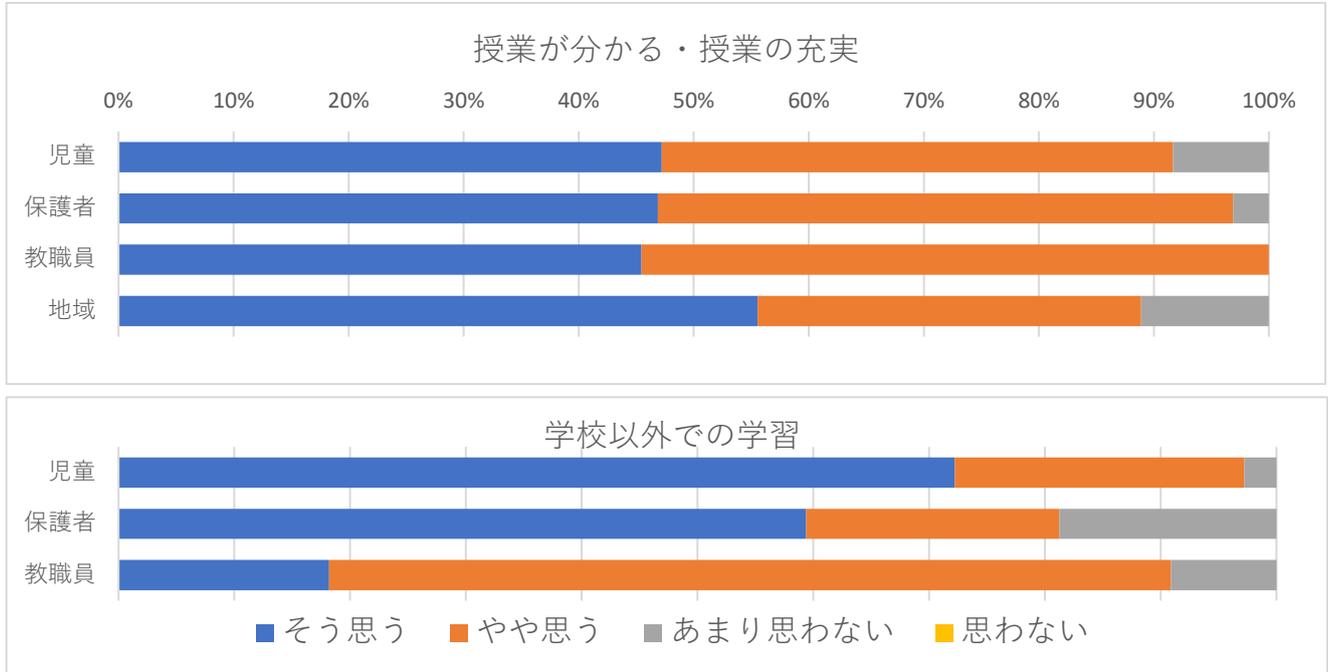


# なみ 40号

わたしがすき  
なかまがすき  
ふるさどがすき



## 学校評価アンケートの結果について④



授業の充実について、「そう思う」「やや思う」と肯定的に回答した割合は、児童、保護者、教職員ともに90%を超えています。学校として『わかる授業』を目指して取り組んでいることが反映された結果とも言えますが、三者とも半数以上が「やや思う」と回答しています。満足度はそれほど高くないとも読み取ることができます。

学校以外での学習では、三者それぞれに異なる結果になりました。肯定的回答は児童97.2%、教職員90.9%と高くなっていますが、保護者は81.2%と若干低くなっています。「そう思う」に注目すると、児童72.2%、保護者59.4%に対して、教職員は18.2%と大きな差が見られました。

学力の定着状況を測る指標として、4月の全国学力・学習状況調査(6年)、標準学力調査(2~5年)、12月の高知県学力定着状況調査(4・5年)、同じく12月の標準学力調査(1~3年・6年)があります。いずれの調査も、学力の定着状況を把握、分析し、今後の指導に役立てることが目的です。そのため、全国や県との平均点の差や順位等を積極的にお知らせすることは推奨されていません。これに倣い、本校でも個人票を個別に返すだけに留めてきました。しかし、実際、各学校では学力の定着状況を客観的に把握し評価するために数値目標を設定しています。先日確認できた本校の今年度の結果は、目標に届いていませんでした。もちろん、学力の向上のために最も努力が必要なのは我々教職員であり、さらに努力が必要であることは言うまでもありません。ただ、こうした現状を保護者や地域の方々にお知らせしていくことで、学力の現状について、課題意識を共有することも大切であると今回の結果から考えました。

学力を最重視するわけではありません。その他にも大切な力はたくさんあります。しかし、学力の向上は、子どもの未来を拓く大きな力になります。また、学校生活の楽しさ、充実にも大きくかかわります。わかる楽しい授業実践により一層努めるとともに、保護者、地域の皆様のお力もお借りしながら、基礎学力定着・向上の取組、家庭学習の内容や方法の工夫等に取り組んでいきたいと思っております。